

CU三多摩ニュース No.12

2016. 6. 15 編集人 小野塚洋行

コミュニティユニオン東京三多摩協議会

〒185-8703 国分寺市光町1-40-12 北多摩西教育会館内

☎・FAX 042-571-1166

Eメール cu3tama@abeam.ocn.ne.jp



6・5総がかり実行委員会の国会周辺の集会に参加

安倍政権の暴走政治にストップ 市民共同のたたかいに合流

6月5日（日）国会周辺3か所での集会が行われ、CU東京三多摩として4人が市民共同のたたかいに合流しました。

安倍首相は、憲法改正を公約に掲げ、6月22日公示、7月10日投票の「参議院選挙で信を問う」としており、重要な選挙戦となる見込みです。

総がかり実行委員会は、戦争法廃止を求めて、2000万人署名を実施し、1200万筆以上が集まり、「野党は共闘」「選挙に行って政権変えよう」の国民の声で、参議院1人区32あるうち、その全ての選挙区で統一候補者が決まっています。

この動きに安倍首相は、危機感をあらわにし、参院1人区に遊説に入り、“安保条約や自衛隊で政策の違うものが選挙協力をやることは許せない”“民進・共産党は野合だ”など悪罵を投げつけています。

しかし、民進・共産・みんな・社民党など4党と市民連合は、「戦争法を廃止する」「立憲主義を回復する」等の政策で一致し、野合批判に反撃をしています。

また、この間長時間労働の規制、最低賃金引き上げ、同一労働同一賃金、保育・待機児解消、介

護・福祉職の賃上げなど15法案を共同提案し、野党共闘の結束を前進させています。

CU三多摩協議会は、野党共闘を応援しています。

執行委員はどんな人なぜCUに関わったの こんかいは星憲彦さんです

私は、東京都教職員組合（都教組）出身です。組合の北多摩東支部から、三多摩地区労働組合連合協議会（三多摩労連）の担当になり、8年間にわたって三多摩全域と関わるようになりました。その間、三多摩の中のいろいろな労働組合や地域の労組・労組連等に携わってきました。この中で、本当に組合員のためにがんばっている人たちや、争議で頑張っている人など、人間として素晴らしい人たちにたくさん出会いました。

退職後は、東京労連の地域オルグも3年ほどやりました。今は、かなりの時間を「平和・民主・革新の日本をめざす三多摩の会（三多摩革新懇）」の活動に時間を費やしています。

そんな時、昨年ある方から私が三多摩でいろんなことやってきたから適任とのことで、若い人たちのシンポジウムの相談会に行ってくれないかという話があり、私は、若い人の役に立てるならその会議に出席することを承諾しました。

ところが、その会議とは、このCU東京三多摩協議会結成大会のための話し合いだったのです。若い人はいませんでした。私は、全く想像していなかったことでびっくりしましたが、何事でも今困っている人の役に立つことであれば、少しでも何かの役に立てればという思いで引き受けました。

まわりのスタッフが力のあるすばらしい方ばかりなので安心して心強く思っています。私も勉強しながら少しでも役に立てれば、そして弱い立場に置かれ苦しんでいる人、悩んでいる人を少しでも助けられたらという思いで、CU東京三多摩に関わらせていただいています。

どうぞよろしくお願いいたします。

（執行委員 星^{のりひこ}憲彦）

労働相談一気に解決！

事例その1（残業代未払）（解決）

簡易裁判所に少額訴訟を提訴予定、事前に相手側に通告したら、2万円が本人の通帳に振り込まれる。残金の支払いを求め、請求書を送ると残金の振り込みあり。

事例その2（電気工事代金不払い）（解決）

相手側弁護士に残金53万円の半額を求めた。当初18万円振り込まれ、残金について、弁護士から「弁護士費用をもらえないが説得するので、15万円で解決してほしい」との依頼があり、相談の結果了解した。

事例その3（残業代未払）（解決）

2年分の残業代ですが、記録を残した1年6か月分を基本に請求をした。51万9千円の支払いを求めたが、「20万円程度でどうか」の回答。請求金額とあまりにもかけ離れているので、「最低でも40万円の支払いを求めた」社長から「できるだけ近づきたい、一括で支払うようにしたい」との発言があり、その後、上乘せ交渉など行い決着。

事例その4（最賃違反）（解決）

団体交渉を行い、当方の要求を認め、解決文書を相手側が作成することとなった。賃金の解決と同時に、60歳以降の無制限雇用も確認された点も非常に大きい。確認書の文書交換し、終了。

事例その5（大手コンビニ雇止め）（解決）

職場復帰は無理との判断で、金銭解決154万円（1年分）と離職票発行（会社側の都合での退職）を要求。離職票の件は了解となったが、解決金は「20万円」でした。コンビニ側は、団体交渉で解決する意向はあるが、1年働いていないのに1年分の要求額は受け入れないとのことでしたが、解決金上乘せで6月7日確認し、了解した。

その他の案件については、解決のため引き続き協議になっています。

CU東京三多摩協議会大会と一周年レセプション

★日時 7月17日(日)13:00大会

15:00レセプション

★会場 北多摩西教育会館内



疑惑満載の舛添都知事は

早急に辞任し、正常な都政に戻せ！

舛添都知事は、政治資金の不正使用疑惑、高額の出張、公用車の私的利用などで、都民の信頼を失い、それらの事実を明らかにするため、都議会で追及を受けています。

15日舛添知事は、都民、各政党の批判を受け、また、7会派の不信任決議案の提出の動きを受け、辞任を表明しました。

都議会は、舛添氏の辞任で幕を引くのではなく、疑惑の全容解明のため、地方自治法に基づく強力な調査権限を持つ百条委員会を設置し、都民に対して明らかにするべきです。

自民党・公明党は、舛添知事を擁立した経緯があり、責任問題を明らかにする必要があるとともに、舛添氏だけではなく、石原、猪瀬都知事と3代にわたり都政を投げ出し、都政を混乱させたことを都民に謝罪するべきです。

医療、福祉、介護、教育など都民犠牲の都政を推進し、大企業奉仕の都政を進めた結果、保育の待機児、特養の待機者など危機的状況になっています。

参議院選挙は7月10日投票で行われますが、都知事選挙は7月31日か8月7日投票で検討されています。国政・都政の浄化のためCU三多摩協議会は、組合員の皆さんとともに奮闘します。

なんでも相談

三多摩協議会は、毎週水・金の午後1時から5時まで、労基法違反の相談、その他のことなど「なんでも相談」を受けています。

☎・Faxは上記

三陸地方被災地の現状を巡る（その2）

7時30分、気仙沼到着、気仙沼港に行ってみる、港では遠洋航海用と思われる漁船が、10隻あまり係留されていた、私は、カモメを見るのに夢中になっている間に、他のみなさんは、岸壁の先にある物産センターに行ってしまった。風が強く気持ちがいい。南三陸町は、10時20分着 防災庁舎に行ってみる、10時50分防災庁舎着 周辺は盛り土工事のため近寄れず、国道を挟んで、献花台がある。ピラミッドのような盛り土の谷間に、鉄骨だけになった防災庁舎がある。近くの「さんさん商店街」(BRTの志津川駅横)で昼食を食べる。生ガキやホヤ、刺身、ウニなどを買い込んで、ここでも宴会になった。「ホヤはうまい」と酒のみたちが私にも食べろというが、私にとって「得体のしれないもの」を食べる気は起きない。こんなに毎回、よく飲めるなと感心する。

ざるそばを食べたが、独特の緑がかったそばで、めかぶが練りこめられているのかもしれない。「100%中97%がおいしい」と看板に書いてあった「おからかりんとう」を買った。シイタケ味が一番人気だそうで、確かに、さっぱりしておいしかった。

12時24分 女川町へ入るが、北上川の橋が工事のため渡れず、石巻を迂回して、旧北上川をわたり、14時、女川市街に入った、高台にある町立病院(地域医療センター)から、被災した市街を俯瞰することができる。建物は一切なく、工事中であった。裏の山を上から崩しているようで、急坂を大型のダンプが登っていく。市街地は復興工事が遅れているようだが、駅周辺は駅も含めて周囲と見違えるように整備されていた、近代的な駅と駅からまっすぐな道が、あか抜けした商店街になっている。その先には、根元から倒れた2階建ての交番が放置されていた。この差には違和感を感じる。

市街地を離れると木造の仮設商店街があった。ここにはよらなかった。15時30分に石巻に入る。市街地の外には、大きな仮設住宅が広がっているが、石巻の街は何事もなかったように賑わっている。日本製紙の工場が白い煙を盛んに吐いているのが目につく。まず、「石ノ森萬画館」を見学、大人800円で、石ノ森草太郎の世界が堪能できる。川の真ん中にあるため、被災した時は、1階はがれきでいっぱいだったとのこと。つづいて「鹿島御児神社」に行ってみる。ここは、



まず、「石ノ森萬画館」を見学、大人800円で、石ノ森草太郎の世界が堪能できる。川の真ん中にあるため、被災した時は、1階はがれきでいっぱいだったとのこと。つづいて「鹿島御児神社」に行ってみる。ここは、



南三陸町防災庁舎 (献花台から)



南三陸町さんさん商店街



女川町市街地をのぞむ (手前に献花台) 女川病院から

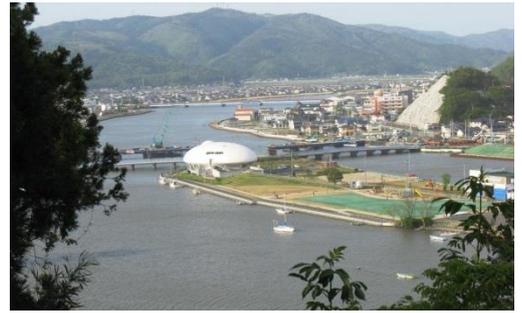


横倒しの交番 (女川)

鳥居のところ、石巻市街を一望できるスポットになっている。海沿いには、被災前は住宅が密集していたが、あとかたもない更地になっているのがわかる。

最後に「がんばろう石巻」の大看板があるところに行った。周りは、流された住宅の土台の跡が一面に残っている。丘の上の復興住宅の工事のため、看板も移転したらしい。看板の横には、こいのぼりがはためき、情報館があった（この日はすでに閉館）。被災した廃材からとった灯がランタンで点っていた。

今日の最後は、東松山市の宿舎に向かった、私は先に帰るため、仙石線の松島海岸駅でおろしてもらった（17時50分）。18時10分発の仙台行に乗る、実に15分で、18時50分に仙台着ローカル線の旅をそれなりに楽しませてもらった。



石ノ森萬画館方面をのぞむ（石巻）

（私的な感想）

私は、三陸沿岸で、大船渡から北、気仙沼から南を訪問したことがなく、以前から現状を知りたかったこともあって、コミュニティユニオンの有志の人たちのツアーに参加させてもらった。私以外の人たちも、被災後にこの地域に関わっており、一緒に行った人たちの話を聞くだけでも参考になった。

しかし、現地に住んでいる人から直接、話を聞かなければ、現状はわからない。そうした意味で、大槌町の阿部さんに話を聞いたことは貴重だったと思う。廻った7つの市・町のうち、街の大半が広く破壊されて

いるのは、陸前高田と南三陸、他のところは、津波で壊滅した地域と被災の跡を残していない地域をかかえているということが分かった。いずれにしても、駆け足の訪問であり、現状を詳しく知るすべはなかった。建設中の巨大堤防、ピラミッドの様にそびえる盛り土の山が、本当に街を復興させるのかは、想像できない。最後に連れて行ってくれたみなさんに貴重な体験をさせていただき、感謝します。

（執行委員 尼崎 学）



がんばろう！石巻の大看板 左右にこいのぼりと情報館